人のいない飛行機

田中貢太郎

青空文庫

航空兵少佐の某君が遭遇した実話である。

某飛行場に近い畑の中に、一台の軍用機がふわりふわりと降りて来た。勿論プロペラーの回転を落した空中滑走である。

空は紺青色に晴れていた。附近で働いていた百姓たちが、

「飛行機だ」

「飛行機が降りた」

と云って、着陸した飛行機にちかづいて見ると何人もいない。

「なんだ、人がいねえじゃねえか」

「兵隊さんはどうした」

百姓たちは驚いた。そこで気の早い連中が機体によじ登って操縦席から機関室を探してみたがやはりいない。

「無電装置かも知れねえや」

しかし、そうでもないらしい。まもなく駐在所の巡査が来、村の有志が来て頭をひねったがどうしても判らない。なにしろ人間の乗っていない飛行機が、操縦者でもあって操縦しているかのように悠悠と着陸したことであるから、人びとはまるで狐にでもつままれたように不思議がっていた。

そこへ飛行服を被(き)た一人の将校がパラシュートを背負(せお)ったまま駆けつけて来た。そして、飛行機を見ると、

「おう」

と云って機体に抱きついた。それは航空兵少佐の某君であった。某君は部下の軍曹とともに飛行中、機体に故障を生じたので、それぞれパラシュートで難を避けたが、今来て見ると己(じぶん)たちの乗っていた飛行機がすこしの損傷もなく着陸していたので、まるで愛児にでも逢(あ)った時のように嬉しかった。某君が夢中になって喜んでいるところへ、これもパラシュートを背負った同乗の軍曹が駆けつけて来た。

（へんだなあ、この飛行機は）

まもなく百姓たちから前後の事情を聞いた某君と軍曹は、己たちがわざわざパラシュートに身を托(たく)して飛び降りたことを思いだして、顔を見あわして苦笑した。

青空文庫情報

底本：「日本怪談大全　第二巻　幽霊の館」国書刊行会
　　1995（平成7）年8月2日初版第1刷発行
底本の親本：「日本怪談全集　第一巻」改造社
　　1934（昭和9）年
入力：川山隆
校正：門田裕志
2012年5月2日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

人のいない飛行機

田中貢太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/